

水産広場オホーツク

No.221 2007.10.2

【ご挨拶】

6月1日付けの異動で中央水産試験場より赴任いたしました。網走水産試験場の勤務は、平成15年5月まで紋別市にある加工利用部(旧紋別支場)に勤務しておりましたので4年ぶりとなります。

網走管内の漁業生産は、平成15年に輸入水産物による魚価安、とくにホタテガイ、サケ・マスの魚価安から大きく落ち込みました。その後、二度にわたる低気圧によりホタテガイ、サケ定置網に大きな被害がありましたが、現在は回復基調にあり、管内漁業の足腰の強さを示しています。着任して間もない6月中旬と8月下旬から9月上旬にかけての2回にわたり関係機関を訪問させていただきましたが、至る所で地域の漁業、水産加工業振興に対する熱意と使命感に接し、これこそが足腰の強い管内漁業の源であると実感するとともに、試験研究、技術開発を通じて管内水産物の安定的発展に貢献していくという当水産試験場の役割を、強く再認識した次第です。

道内には六つの水産試験場があり、それぞれ拠点的研究課題を持って試験研究を行っています。当水産試験場では、「ホタテガイの生産から加工・流通まで一貫した技術開発」を拠点的研究課題として取り組んでいますことから、これに関連するホタテガイ成長モニタリング、貝毒プランクトンのモニタリング、増養殖場の環境保全対策、ホタテガイの加工技術や廃棄物リサイクル技術の開発などを、引き続き進めて参ります。また、ホタテガイばかりでなく管内の重要漁業資源であるケガニ、カレイ類やホッケなどについても的確な資源評価と資源管理に関する研究を、浅海資源であるエゾバフンウニやマナモコについても資源増大に向けた研究を、さらに、オホーツク沿岸の水産加工業の支援に向け主にホタテガイ、サケ・マスを対象に高付加価値化、有効利用、鮮度・品質管理、品質評価、廃棄物リサイクルに関する技術開発を進めて参ります。

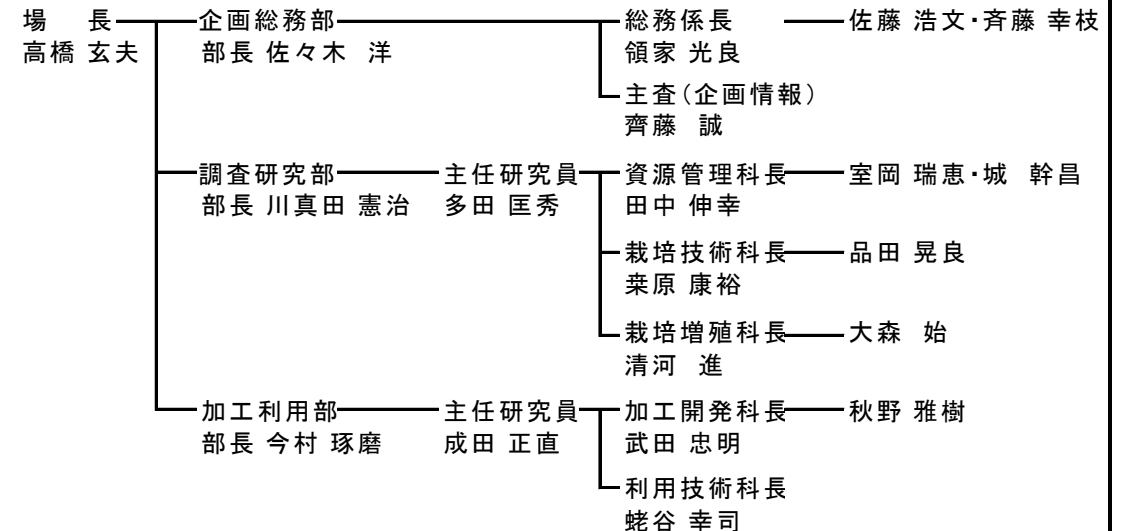
水産を取り巻く状況は様々ありますが、健康志向の高まりによる欧米における魚介類消費の増加、BSEや鳥インフルエンザによる食肉への信頼度低下による魚食の増加、経済発展の著しい国による魚介類買い付けの増加、禁止薬品使用による輸入水産物の信頼度低下などにより、安全・安心な水産物の需要増加という明るさがみられ、管内漁業の二大魚種のホタテガイとサケ・マスでさらなる需要増加が期待されています。一方で、燃油高騰により水産の生産活動に支障が出始め、さらに生産用資材の値上がりしが危惧されている厳しい面もあります。このような中、管内の水産物の安定的発展に、そして水産物が食料として安全・安心な水産物を安定供給するという社会的役割を果たすことに貢献できるよう、関係機関の皆様と連携しながら当水産試験場の試験研究を進めて参りたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

(場長 高橋玄夫)

【平成19年度組織体制について】

6月1日付け人事異動により、当水産試験場の組織体制が変わりました。高橋場長以下、佐々木企画総務部長、齊藤主査(企画情報)が着任となり、新たな体制で地域の水産物の発展のために、水産関係の試験調査に取り組んでいきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【平成19年度 網走水産試験場組織図 (6月1日現在)】



職員数	20名
研究職	15名
行政職	5名

【網走支庁管内巡回訪問について】

去る8月24日から9月3日までの5日間、平成19年度の網走支庁管内巡回訪問を実施しました。例年、水産関係団体を訪問して、水産試験場に対する要望を把握し、今後の試験研究業務に役立ることを目的として行っているものです。

今回、水産関係団体を訪問して試験研究のご意見・ご要望のあった主なものは、次とおりです。

- ・ ナマコに関する試験研究
(人工種苗の開発、資源調査、中間育成、資源管理、漁場造成)
- ・ マガレイの高付加価値試験研究成果に関する発表依頼
- ・ 水産廃棄物、水域環境に関する試験研究
- ・ 水産加工製品の試験研究

また、紙面に掲載していない、数々のご意見・ご要望も踏まえて、今後の試験研究業務の参考にさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

北海道立網走水産試験場

〒099-3119 網走市鱒浦1丁目1番1号 TEL:0152-43-4591

FAX:0152-43-4593

調査研究部直通 TEL:0152-43-4592

TEL:0152-43-2796

加工利用部

〒094-0011 紋別市港町7丁目8番5号 TEL:0158-23-3266

FAX:0158-23-3352

<<マリンネット北海道ホームページ <http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp>>>